

花沢アイクリニック通信

第119号

R2年11月



くっせつじょう

屈折異常について～その1～

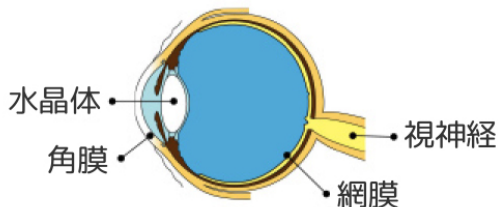


こんにちは。院長の梅津由子です。

新しい生活様式のもと、いかがお過ごしでしょうか？

コロナのせいで延期となっていた学校検診がようやく終了し、クリニックには視力低下を指摘されて、新しく眼鏡が必要になった児童・生徒さんたちが受診しています。

今回から数回に分けて、近視・遠視・乱視などの屈折異常について、解説していきたいと思います。



人間の目は、カメラと同じような構造になっています。

カメラのレンズに相当するものを水晶体、フィルムに相当するものを網膜といいます。カメラで写真を撮るときはレンズが前後に動いてピントを合わせますが、人間の目では、水晶体がその厚みを増すことにより、無意識の

うちにピントを合わせてものを鮮明に見ているのです。この働きを目の"調節"といいます。

調節をしない状態で遠くを見たとき、網膜にきちんとピントが合う屈折状態を「正視」といいますが、実際には網膜にピントがきちんと合う人は少なく、大多数は屈折異常です。屈折異常では、網膜にピントが合わず、網膜の前後でピントが合ってしまいます。

網膜の前にピントが合う屈折状態を「近視」といい、逆に網膜の後ろにピントが合う屈折状態を「遠視」といいます。

近視や遠視という屈折異常を引き起こす大きな原因は、眼軸長（がんじくちょう）という目玉の前後方向の長さが異なることが考えられます。さらに、水晶体や角膜の屈折力の差によることもあります。強い近視ではほとんどの場合、眼軸が長いことが原因です。

近年、小中学生で視力 1.0 未満の割合が年々増加していることは知られていましたが、2019 年 8 月に発表された慶応大学の研究で「東京都内約 1400 人の小中学生を調査したところ、小学生の約 76.5%、中学生の 94.9% が近視になっていること」が判明しました。都市部と本県では全く同じとは言えないものの近視のお子さんが増えていることは紛れもない事実といえます。



目玉いきいきライフ

目玉いきいきライフのコーナーでは、
目の健康に関する情報や、
耳より情報（眼科だけどっ）をお届けします。

いまい医院さんとの
コラボ企画！

教えて！今井先生



こんにちは、いまい医院の院長今井です。

以前にも当院の紹介をさせていただきましたが、花沢
アイクリニックさんの隣で乳腺外科、内科で開業してい
ます。開業後 15 年を過ぎたところです。

今年の 5 月に開院以来働き続け延べ 34, 877 件のマンモグラフィ撮影
をした初代のマンモグラフィ装置に別れを告げ、新しい装置を導入しま
した。

新しいだけに、画質も良好になり、撮影スピードも速く以前の装置で 3
件の撮影時間で 4 件ほど撮影可能になりました。待ち時間の短縮、撮影

件数の増加にも貢献しています。

話はかわりますが、新型コロナ感染とがん検診についてのお話です。

皆さん感染には十分に注意されていると思いますが、その結果外出や人と接触をひかえることに
なり、結果としてがん検診を受ける人が減少しているようです。4、5 月は検診そのものが行われ
なかった所も多くありました。

当院でもマンモグラフィ件数が 4、5 月は去年の 2/3 に減っていました。その後は 9 割程度に
回復しています。がん検診をひかえることにより、がんの発見が遅れる可能性もあります。感染予
防に気をつけながら昨年までと同じにがん検診を受けるようにお勧めします。

～最近はじめたこと～

スピンバイク（写真をご覧ください）を購入しました。毎日 30－60
分こいでいます。と言いたいところですが、週に 3 回ほどです。20
分過ぎると汗が出始め 30 分以上ではかなりの発汗になります。年齢
による筋力低下の予防ではなく、筋力増進、心肺機能の強化、余分な
脂肪の燃焼を目的としています。一年ほどで目に見える結果をだす予
定です。



いまい医院 電話：0238-22-1867
診察日時：月－木 午前9時－12時半
午後2時－ 5時半
金 午前9時－12時半
土 午前 9 時－午後 1 時半

編集後記

朝晩寒くなり、乾燥が気になる季節
です。うつる結膜炎で受診する方が
増えていますので、手洗い
など感染予防を心掛けましょう。
ビビ・ブッチ・まめちよ

